

經典餘師

論語四

五



11

1029

5



衛の世公弟

衛の世並公陳を

孔子問孔子對

て曰まはく俎豆之

事ハ則ハち嘗て

之と聞軍旅之

事ハ未^レ之^ノと學

未明日遂に行

陳は在いて糧

絶從者病能

興こ莫

子路慍見曰く

君子也亦躬焉

論語朱熹集註

衛靈公第十五

衛靈公問陳於孔子孔子對曰俎豆之

事則嘗聞之矣。軍旅之事未之學也。明

日遂行
聖公毎道仁義を好む
を御發ふは嘗く礼法の組屋

あつゝゝの事ハ聞^{きこ}するもいへども軍旅^{いくさ}のうへハ木^きこ
習^{しゆ}なうと仰^{おほ}あて無^む並^{なみ}公^{こう}の徳^{とく}を好^{この}らう以^{もつ}て遂^{つい}に去^さ

在陳絕糧從者病莫能興のとき
聖人

衛を去り陳をとりやうといふに、あれは追國ぐの無道さにて、逢ふる時糧乏く從ふ者うへを病て興居るまへに、

子路慍見曰。君子モ亦有窮ヤ乎。子曰。君

と有乎子曰まへ
君子固より窮を
小人窮まれバ斯
く濫を

賜女予と以て
多く學んで之を
識る者と為與

對て曰く然非龜
曰まへく非也予
一以て之と貫ぬく

由徳を
知者鮮

無為むゐとして治おさる
者ものハ其その舜しん與よ夫そ何なに
と為な哉や已おのれと恭うやく
あつて正ただし
南面なんめん而の已し

子固窮小人窮斯濫矣

子路心二慍怒一
ふくめて聖人へ見

奉^たつ^たや^やハ^ハそれ^{それ}天道^{天道}ハ^ハ悪^悪と^とく^くて^て善^善た^たる^ると^とに^に與^與
 う^うと^と曾^曾て^てさ^さく^くま^まる^るに^に今^今德^德ハ^ハ厚^厚と^と君^君子^子も^もや^やう^うみ^み
 困^困窮^窮ハ^ハや^やう^うび^びく^くふ^ふと^とハ^ハい^いつ^つた^たる^る道^道理^理に^にり^りや^や御^御答^答ふ^ふる^るの^の
 事^事を^を述^述ぶ^ぶる^るの^のう^うま^まき^きれ^れ天^天道^道ハ^ハも^も時^時節^節の^のめ^めく^くと^とし^し
 た^たの^の変^変事^事あ^あり^りその^{その}う^うへ^へ過^過福^福吉^吉凶^凶ハ^ハ天^天命^命と^とて^て運^運數^數
 の^の定^定ま^まる^るう^うら^らい^いま^まる^るは^は操^操節^節を^をま^まり^りの^のと^とて^て困^困窮^窮に^にい^いへ^へ忍^忍と^と
 り^りの^の君^君子^子の^のい^いふ^ふう^うと^とし^し心^心入^入の^の淺^淺と^と小^小人^人の^の革^革車^車ハ^ハも^も身^身
 々^々と^とさ^さる^る窮^窮ま^まる^る時^時ハ^ハも^も久^久く^く行^行な^なう^うを^を濫^濫と^とと^と
 仰^仰せ^せら^らる^る味^味く^くと^とし^し

子曰賜也女以予爲多學而識之者

與ヲ聖人ヒトぞめしに道ミチハひろく大なりといふも本休一理なることなるにりや學者ガクぞに之もあらんやと

これに依て子貢へ問ふは女の中に道とて
のハ学まなぶと多く書識しやくしの累かさねと以為おもふ與や 子曰

然非與曰非也予一以貫之子貢曰一以貫之
曰子貢曰誠ハコトヲ然シヤク

御發より侍りて予道とりてその理ありとハなり只誠の

一ツを以て五事と貫くものなり。仁恕一貫の
とハ里仁の筈。くくハくく是を出しと。

○子曰由知德者鮮矣

己が胸中小たくて徳の味を知り鮮とありふ

らま^ま前にあ^あろ^ろ子^こ路^ろの
い^いろ^ろ見^み一^一時^じの^のな^なろ^ろん

爲哉恭己正南面而已矣
舜帝の徳ハ大ニ
何モ奇リシ

何をも為さず天下あつて
 誠敬を尽し己身を恭しく

子張行ちひと問
子曰まはく言忠信
行ちひ篤敬
蜜豹之邦と雖
行まはる言忠
信な不行ちひ
篤敬ちひ不バ州里
雖行まはる
哉
立バ則ち其前に
參ハる見輿在
ハ則ち其衡倚
と見夫然して後
行ハる

子張諸と紳
書と

直ち哉史魚
邦道有ハ矢の
如く邦道無
矢の如く
君子たる哉蘧
伯玉邦道有ハ
則ち仕邦道無
ハ則ち卷て之
を懷ちる可

正しうして南面に座し
金為とりしと身と動
人を擧て位は備へ國を治め
才能を恃又ハ威勢を頼り
馬を永く久く人へや

○子張問行子曰言忠信行篤敬雖

蠻貊之邦行矣言不忠信行不篤敬雖

州里行乎哉

忠信く篤敬く執守バた
州里の片田舎なり
若るに時ハ

立則見其參

於前也在輿則見其倚於衡也夫然後

行右忠信篤敬の身とを
行ちう立とハ目前に物
如くす輿に乗ても

馬の輻倚ハ如くハ然あ
のらハ夷狄蠻貊と
子張書

諸紳

端々忘るる
子張書

○子曰直哉史魚邦有道如矢邦無道

如矢

吾職を守て矢の如く邦無道
君子哉蘧伯玉

邦有道則仕邦無道則可卷而懷之

蘧伯玉ハ其の賢徳大なり
合しうハ邦無道ハ出仕官を
知を出して逢ふハ懷中ハ卷
徒つて時節を

與言可而
之與言不人
失言與言
不而而之
與言言失
知者人失
不亦言失

志人人生
以仁害
無身
殺以仁
成有

子貢仁為
其事善
欲必其器
利是邦
居其大夫之賢者
小事其士仁者
友之

顏淵邦為
夏之時
殷之輅

殷之輅

經典余師

逢之の

子曰可與言而不與之言失人不可與言而與之言失言知者不失人亦不失言

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

子曰志士仁人無求生以害仁有殺身以成仁

論語四

四

王陽明集注

周之冕と服

樂ハ則ち韶舞

鄭聲を放ち

佞人を遠ざけよ

鄭聲ハ淫なり

佞人ハ殆

人遠慮を

憂有

已矣乎吾未見

好色を好む

如くたる者を見

の金玉をとりて易し服周之冕頭につく冕五品

奢侈して易し樂ハ聖人舜帝の樂を善

己身天下にある時周の聖人孔子既に先王の礼樂を

酤酌して説く放鄭聲遠佞人鄭聲淫

佞人殆鄭の國の音ハ正しく淫くなく佞人邪心の人ハよく

急務の所作ハ置て千里の遠を思慮を憂うは社席の近き起る

子曰人無遠慮必有近憂金用の言

子曰已矣乎吾未見好德如好色者也聖人小徳を好む人の已矣乎と云ふとたん

子曰臧文仲其竊位者與知柳下

惠之賢而不與立也魯の大臧文仲を評し

子曰躬自厚而薄責於人則遠怨矣義不義をたゞし自う吾躬を厚く責て人ハ

之如何之如何
何人曰不者ハ
吾之如何と
未已

君子居終日言義
及バ不小慧を
行ハルを好む
難哉

君子ハ義以て
質と為礼以て

之を行ハル孫
以て之を出信
以て之を成君子
ナリ哉

君子ハ能無を
病人之已知不
を病不

君子ハ世と没て
名稱セ不疾む

薄く責むバ怨をうらむ

○子曰不曰如何之何者吾未如
之何也已矣
如何之何とハいふく熟く身
を學問の道に於てこの

○子曰君子居終日言不及義好行小慧
難矣哉
一言ふも義理なること及バざるものとあひハ

○子曰君子義以為質禮以行之孫
以出之信以成之君子哉
義を以て五体の

○子曰君子病無能焉不病人之不已
知也
徳ある人ハ常に己の身の能ハるの不足を憂へ

○子曰君子疾没世而名不稱焉
右の二句ハ君子ハ徳を以て己の身の能ハるの不足を憂へ

然れども吾身の没世に名の世に稱せざることを憂へ

○子曰君子疾没世而名不稱焉

斯民ハ三代之直道を行ふ所以なり

吾猶史之闕文
及馬有者
人借て之
乗し今亡夫

巧言徳を亂小
忍び不バ則
大謀と亂

衆之を惡む必
察と衆之と好
必らむ察も

人能道を弘む
道人を弘む
に非ど

言ふことのつらばまう試ていりく
斯民也三代
之所以直道而行也
今の人として三代之聖王御座
の時ハ私曲なくとく直道よ
行ふ人なくや

子曰吾猶及史之闕文也有馬者借
人乗之今亡矣夫
段前ハ人の信
の段前ハ人の信

ハの史役人
その直實を正さる内ハ記となく文を闕てのけあ
私の見識をまへるの風俗をてあ
馬を持し人の入用を借てるけなく乗
めたがひの爲なり
信實のいふて今ハこの風を亡夫

子曰巧言亂徳小不忍則亂大謀

巧言に言をさる者ハ人ハ徳を
又ハ小の事と堪忍となく人ハ謀とす
またハ今ハこの世に大功をさるにハ細勤を
するにハこの世に大功をさるにハ細勤を

子曰衆惡之必察焉衆好之必察焉

君子ハ人を善く捨るもその正しき
衆の惡くの人を惡くしとくそのた
衆の惡くの人を惡くしとくそのた
衆の惡くの人を惡くしとくそのた

子曰人能弘道非道弘人

人ハ外に道の有るを弘む人ハ道理
さる得るその徳弘く大なる人ハ又人の性ハ義智
の道さるるあはれそれ人ハ心を弘むと
りてハこれ道より人を弘むの理なり

過ちて改めず不
是過ちと謂

吾嘗て終日食せ
不終夜寝不以て
思益無學一如

君子ハ道ヲ謀て
食ヲ謀ら不耕

饒其中ニ在學
豫其中ニ在君
子ハ道ヲ憂て

貧しと憂不

知及之仁之守
と能ハ不之を得
と雖も必らむ之
を失ふ

子曰過而不改是謂過矣人過つたのち改む

子曰吾嘗終日不食終夜不寢以思

無益不如學也人つづつて吾心とて益のありて終日終夜食せども寐不

務しむめそげむとてハ事の
以て務めそげむとてハ事の

子曰君子謀道不謀食耕也饒在其

中矣學也祿在其中矣君子憂道不

憂貧君子ハ道を謀るを義理を重んず道ハ
身を脩め家を齊へ國天下を平るに治る

の工を以て食祿ハ心けりて思ひ謀るべし農
人の耕とて如く耕とて田畠に精を出さるる
なり諸土を以て道とて心けりて思ひ謀るべし
ある者ハ其の用とて天年時節に達するに
ざる如く耕とて思ひ早損水人の飢饉
その中自然とて思ひ早損水人の飢饉
心に憂て貧を

子曰知及之仁不能守之雖得之必

失之私欲の心をこれをもちつ時ハたとひ

知及之仁

能守之不莊以涖之則民不敬道理とて

民敬也

知之及仁能之
守莊以之
位之動也
禮を以てせ不
未善未

君子ハ小知可
受可小人ハ大
受可
小知可

民之仁ハ於水
火ハ甚
水火ハ吾蹈で死
者を見未

仁ハ當てハ師
譲不

君子ハ負うて
諒ナ不

經典余師

守之莊以位之動之不以禮未善也
知及之仁能

守之莊以位之動之不以禮未善也
知及之仁能

子曰君子不可小知而可大受也小
人不可大受而可小知也

子曰民之於仁也甚於水火水火吾
見蹈而死者矣未見蹈仁而死者也

子曰當仁不讓於師
聖人の道ハ志向の

子曰君子負而不諒
君子ハ是非を正

命言曰

三才集義

得子八續

道同どうどう相あひ為な謀はかり不ふ

水又曰吾學之
火也曰甚焉者
月安之曰然也

子曰辭達而已矣

文章ハ志とのづるづ弟
一のとなきハ己が意と

及子ふたご曰いまいハいクく階かゐ

子之告曰（一）曰（二）ま
 ぐく（三）某（四）ハ斯（五）ニ在（六）
 某（七）ハ一（八）、斯（九）ニ在（十）

師シ冕ミョウ出デ子コ張チヤウ問モン
て曰く師シ與ヨリ言コト之ノ

經典餘師

王集經藏

師冕見及階子曰階也及席子曰席
 也皆坐子告之曰某在斯某在斯
 師冕曰樂人の師とて名ハ冕とシテ人ナリ聖人へのと
 してとてと時階より降りて来りければ聖人よりを
 かけ多しりや階よりとそれより座席に近づく及び
 ければより座席なりとのちか門弟子がとも各席に
 坐しければよりとてのちか門人何某は
 何某ハこれありと告ぐこれ目な者ハ人の
 身体を具足するがゆへにとて
 師冕出子張

師是出千張

道與子曰然固相師之然固師と相
う之道也

問曰與師言之道與子曰然固相師之
道也然固相師と相對するの礼
相敬の道なりと仰せらる

季氏第十六

季氏將伐顓臾冉有季路見於孔子曰

季氏將有事於顓臾三家の季氏顓臾の
城を攻伐して顓臾ハ

魯の附庸の國の名なりこの時冉有も季路も季氏
氏は仕てありき聖人ハ告きて曰く吾主季氏

爾是過與夫顓臾昔者先王以為

東蒙之主且在邦域之中矣是社稷之

臣也何以伐為聖人冉求一人ハ仰とある元來
季氏が為に聚斂をなす今又

諫をも用ひて依てかく御香あり冉求冉有過りて無と

蒙山土地を封て領地なり此れ山の祭を司る
社稷大功の臣なりその人ハ邦域の内ハ在る今魯ハ

廣と七百里といへども季氏ハ四割を占めて季氏との二分と

多し孟氏叔氏その二を占めて保つ今又公室の

臣を伐つて人となし不義也冉有曰夫子

欲之吾二臣者皆不欲也冉求又曰く

孔子曰求周任有言

曰陳力就列不能者止危而不持顓而

不扶則將焉用彼相

且再言過矣

虎兕出於押龜玉毀於櫝中是誰之過

是誰之過

冉有曰今夫

冉有曰今夫

冉有曰今夫

孔子曰

孔子曰

孔子曰

孔子曰

孔子曰

孔子曰

孔子曰

不扶則將焉用彼相矣

聖人又仰あう冉求

周任といふ人の言ふんを臣下

鵬といふ能はざる身を退て役義を止去べし

虎兕出於押龜玉毀於櫝中是誰之過

與その且再の詞二テハ欲しと

附そふ人の外口より虎の冉有曰

固而近於費今不取後世必為子孫

憂冉求又曰く聖人の明教つ

季氏の持領の費の城下へ

孔子曰求君子疾夫舍曰

欲之而必為之辭

丘也聞有國

有家者不患寡而患不均

患不安蓋均無貧和無寡

安無傾

多能無女けき

傾むくも無

夫是の如く故

遠人服せ不

則ち文徳と脩

て以て之を来

既之を来せば

則ち之と安ん

今由と求與夫

を相遠人服せ

而て来と能

不邦分崩離折

而て守と

能ハ不

内は在

孔子曰まはく天下

道有べ則ち禮

樂征伐天子自出

天下道無き則

ち禮樂征伐諸

侯自出諸侯自

出蓋十世

希て失はハ不

希と大夫自

病とく又物どく貧乏なるを患ふてたうとて小
分定まり均さうとてく分入安ん心をばさるの欲心
さうとて君臣相殺る害さるをさうとてさうとて上下
分を守て均さるは貧くさうとて上下和ひて一致なるは
人寡と患ふの理さうとて夫如是故遠人
安ん穩たはバ國の傾といふとて

不服則脩文徳以來之既來之則安之
如是れむとて上下分と守てやとてさうとて遠方
の人さうとて帰とてさうとて服さる時仁義文
徳をばさるさうとて脩てたうとて来さるに
今由

與求也相夫子遠人不服而不能來也
然るに子路と
邦分崩離折而不能守也

自專とてりて分崩離折
而謀動干戈於邦
内吾恐季孫之憂不在

牆之内也
の内に謀といふは道理をわきま
顓臾ハ費りちるさうとて後世の憂とて思ふに
人心北背垂さうとて却て季氏の心憂ハ顓臾ハ不在蕭牆
内は元と起さうとて吾ハ
そのさうとて思ひさうとて

孔子曰天下有道則禮樂征伐自天
子出天下無道則禮樂征伐自諸侯出
自諸侯出蓋十世希不失矣自大夫出
五世希不失矣陪臣執國命三世希不

經史餘師

論語

十四

王莽傳

官威

出まハ五世に
て失ハ不正希
陪臣國命と執ハ
三世にして失ま
不正希

天下道有ハ則ハ
政と大夫と在
不天下道有ハ則
ハ庶人議不

孔子曰まハく祿之
公室と去五世
政と大夫と逮
四世故ゆへ夫
三桓之子孫微
なり

孔子曰まハく益
者三友損者三
友直を友と
諒を友と多
聞を友とま
益たり便辟を
友と善柔を友
と便佞を友と

失矣

禮樂征伐の事ハりる万事の權威天子
と天下よく治平て清く道あるなりこれ順道なり
り覇者の盛なる時の如く勢が諸侯一帰して
國法の命令諸侯自專に執ちたり時ハ天理に逆ゆ
十世を経るハ遂に權威を失ひたりのなり諸侯
り政道出る時ハいふに理に逆ゆるなり
倍臣もなりこの故ハ五世といふ又大夫を見ちてハその
倍臣もなりこの故ハ五世といふ又大夫を見ちてハその
弥もなり理に逆ゆるなり
天下有道則政不
在大夫天下有道則庶人不議
政道中く大夫と在るの理なりその中清く
道ありハ庶人の都ども上の事を評議するなり
なり

孔子曰祿之去ハ公室五世矣政逮於

大夫四世矣故夫三桓之子孫微矣

この段ハ魯國のときも上の章をうけて其驗と
るの段ハ魯國のときも上の章をうけて其驗と
弒して宜ハを立しより五世を経て大夫三家に
權威を失ひたりこれ國家の權威官祿の公室
を去るなりこれ三家の國の政務を失ひたりハ
わ四世なり又その臣陽虎が爲に權威を失ひ
衰へる三家ハ桓公の子孫なり
の故ハ三桓の子孫微なりといふ

孔子曰益者三友損者三友友直友

諒友多聞益矣友便辟友善柔友便佞

損矣

人ともなり朋友となりて身に徳益
あるもの三なり又身に損失あり朋友ニ

系中餘自

三樂損者三樂不

樂人之善也

とと樂と賢友

多と集むハ益

馬車を乗

宴樂と樂むハ損

た

孔子曰生ハク君子

侍る十三の巻に

有言未之

よ及び未而して言

之
蹤
訓
言

子及下而止言

不_レ隱_レ語_二天

顏色與天

一

言

キトクに損あるとぞ

卷二

樂文四三二一

又推みるに三つ

導して人々を善とと導くなりての道なり

を樂む身の益ありたり又損ありたり三

人二ツハ身を佚^しを怠^りてまゝなる人三ツは酒

行義たると窮窟なりといふものなり

子方君

言人而不言

其言ハ三の衍心⁴うちとく入る

言と躁と

とてあさふく又先方の顔色をもえん

はるかに面白きところありたのちあり中へくや

孔子曰はく君子

少三の戒め有

なる之時血氣未

定ぬ未之戒

しと色に在

壯なる及で血

氣方は剛一之

戒むる闘ふ

在其老に及

血氣既衰る

之戒むる得

在

孔子曰はく君

子少三の畏も有

天命と畏大人を

畏る聖人之言と

畏る

小人天命を知不

して畏不大人を

狎聖人之言を

侮る

孔子曰はく生

之を知者上も也

学で之を知者ハ

次也困んで之を

学へ又其次也困

んで而して学

不民斯と下と為

ちる事を

○孔子曰君子有三戒少之時血氣未

定戒之在色及其壯也血氣方剛戒之

在闘及其老也血氣既衰戒之在得

君子ハ心一戒めつゝむ事三あり人二十前後ハ血氣

の生る時節なるもの時いふむ事いふに在る

志をくくものなり四十前後を壯とて血氣の盛

過てを老とて剛なる時節なり心に闘争の意

を戒むるなりそて年老てハ血氣衰るるなり

ありそに諺に云ふなりげなく遠慮なるなり

場の戒むるなり

○孔子曰君子有三畏畏天命畏大人畏聖

人之言

君子ハ心一畏つゝむ事三あり人二十前後ハ血氣

の生る時節なるもの時いふむ事いふに在る

志をくくものなり四十前後を壯とて血氣の盛

過てを老とて剛なる時節なり心に闘争の意

を戒むるなりそて年老てハ血氣衰るるなり

ありそに諺に云ふなりげなく遠慮なるなり

場の戒むるなり

○孔子曰生而知之者上也學而知之

孔子曰まほく君

子九思有視

明と思聰ハ聰

思ハ色ハ溫と思

貌ハ恭と思ハ

言ハ忠と思ハ

事ハ敬と思ハ疑

向と思ハ念難

と思ハ得ると思

ハ義と思

孔子曰まほく善

見て及ハ不ダ如

不善と見て湯と

探るダ如ハ吾其

人を見五其語と

聞

隱居して以て其

志と求め義と

行かうて以て其

道を達と吾其

語を聞未と其

人を見未

聖人の教を學びなうと後づくるの理達とハ
中なう又人の心やと早くさうさるを後てさう身と
あう困と學得さうハ又その次の徳なうと今日
身を困さる學とさるさる民とさう人の
下とさう
かう

○孔子曰君子有九思視思明聽思聰

色思溫貌思恭言思忠事思敬疑思問

忿思難見得思義

君子ハ九つの思按て大あう

明とさうやうふとさう耳

とやう聰とさうとさう顔色ハ何とさう溫潤とさうと

さうとさう貌ハ恭とさう言ハ忠とさうと事ハ敬とさう

とさうとさう忿思難とさう見得とさうと義とさうと

さうの事ハ是ハ義とさうとさうとさうとさうと

行かうとさうと

○孔子曰見善如不及見不善如探湯

吾見其人矣吾聞其語矣

善とさうと見てハ何

とさうとさうと見てハ手とさうと以てあうとさうと湯とさうと探るダ如く

とさうとさうと誠とさうと善とさうと好とさうと誠とさうと惡とさうとあうとさうと聖人

とさうとさうと御門人とさうと魯子顔子の人とさうと

義以達其道吾聞其語矣未見其人

也

齊の景公馬千駟有死之日民無德而稱焉伯夷叔齊餓于首陽之下民到斯之謂與

○齊景公有馬千駟死之日民無德而稱焉伯夷叔齊餓于首陽之下民到于今稱其斯之謂與
齊の國に馬千頭ありて死す日民無徳を稱ふを伯夷叔齊の餓死を稱ふに比して其の徳を稱ふ事なり
武王の紂を討つに伯夷叔齊の忠義金鐵の上なるを天地の明道に契するを諫て死す
子曰誠不以富亦祇以異
伯夷の徳の盛なりと異なりと伯夷の

陳亢伯魚曰子亦有異聞有乎
對曰未也嘗て獨立鯉趨て庭と過曰まへて學する乎
對曰未也嘗て獨立鯉趨て庭と過曰まへて學する乎
對曰未也嘗て獨立鯉趨て庭と過曰まへて學する乎

○陳亢問於伯魚曰子亦有異聞乎
伯魚ハ聖人の御子なり陳亢ハ心御子ハ別の御子なり
對曰未也嘗獨立鯉趨而過庭
曰學詩乎對曰未也
退而學詩對曰未也
嘗て獨立鯉趨て庭と過曰まへて學する乎
對曰未也嘗て獨立鯉趨て庭と過曰まへて學する乎
對曰未也嘗て獨立鯉趨て庭と過曰まへて學する乎

詩を学まなぶ

て庭と過曰まへく

禮乎ヲ對曰コト未也レ不學ハ禮無以テ立テ鯉退而

學禮聞斯二者他日又獨立中作此致ハ

鯉退ひて礼と学
斯二の者と聞

礼を学ばうやと仰あり未なりと答り一だまうと仰せ
あにハ礼を学ばなうぞハ胸中の徳をうつり茲むと

陳亢退ひて喜ん

かの二つの者と承るうーとぞ
 陳亢退而喜

得^えて^いく^くを^を問^とて^て三^{さん}と^と
詩^しと^と聞^きれ^れと^と

曰問一得三聞詩聞禮又聞君子之

聞又君子之其子
と遠きことを聞

遠^チ其^ニ子^ノ也
陳亢^{チンコウ}も退^ノ出^スして喜^ニびていふ
さういふ二つの問うて三つの徳を得

邦君之妻君之

愛して押くら付るの道を知ると

稱して夫人と曰
夫人自ら稱して

○邦君之妻君稱之曰夫人夫人自稱

小童と曰邦人之と
稱して君夫人と

曰小童邦人稱之曰君夫人稱諸異邦

曰諸を異邦に稱して寡小君

曰寡小君異邦人稱之亦曰君夫人

曰異邦之人之
を稱して亦君

聖人の人と御話説の中（中）にありしを載（載）せり

夫人と曰ふ

夫人とて小童と稱ふその邦の下くの者なり

陽化貝弟十七

君夫人とて上同く下くの者とも異邦へ行て構ふハ
寡小君とてあまれの徳の小き君なりとの心なり君を

陽也。孔子小見
人。欲を孔子見

大君とて心りち
詞ふ大君とてを
稱尊て君夫人と
異邦の人よとの

不孔子ふこうし小豚せうとんと歸かへり
孔子こうし其亡そのなほと時ときと

陽貨第十七

之^を拜^を諸^を一^を

陽貨欲見孔子。孔子不見。歸孔子豚。

塗上之遇

孔子時其亡也而往拜之遇諸塗

孔子謂曰
 來予再言
 曰其實與懷
 其邦迷仁
 謂可乎曰
 不可事
 從之好
 不可時
 知語可乎曰
 不可
 月逝我
 與孔子曰
 諾吾將
 仕人將

陽貨季氏の臣陽虎なり其の時魯の政道を
 專執し執事として猶聖人へまゐりて聖人の手
 奉ずる人と欲するなり聖人も其の義の臣
 らばむと欲するに陽虎計をめぐりて聖人の
 殺す隙を設けしむるあり其の法に
 事あるを御出の途中に出會ふ謂孔子曰來予
 與爾言曰懷其實而迷其邦可謂仁
 乎曰不可好從事而亟失時可謂知
 乎曰不可日月逝矣歲不我與孔子曰諾
 吾將仕矣

性相近
 習相遠

子曰性相近也習相遠也
 性ハ人の生
 始に義の善徳を
 賢愚の相
 相近との
 て自然大段
 豈恥

唯上知と下愚與
移ら不

○子曰唯上知與下愚不移のうと下愚は

ちかく相同く身のちき習とるやう善し悪と賢

と愚と遠ざくるるさつち又さうなと

つく本の性の善道なるにちてへべきなりあるに

善道は志ざり悟知のなりなり

愚ちる者へまじく

解て愚かるるへ下へくさるる本一処てしりや

上へのなり下へく上下隔るるを時ハ遂

同いなり此時ハ本の善一へ移るるなり

○子之武城聞弦歌之聲

この時御門人

城下ふの宰を以て教治をいへるその

武城へ之を

夫子莞爾而笑曰割雞焉

用牛刀

治るふハ及まじく心ハ小なるの城邑を

子曰昔者偃也聞諸夫子曰君子學

道則愛人小人學道則易使也

用ゆるふハ及まじく心ハ小なるの城邑を

子曰二三子偃之言是前言戲之耳

聖人聞めりて二三子の輩に今子游の言ハ

即ハ是本理を吾前に牛刀のめと言ハ必や

○公山弗擾以費畔召子欲往子路不

說曰未之也已何必公山氏之之也

子游對て曰く

昔偃諸と夫子

小聞曰く君子

道と學べ則ハ

道と學べ則ち

使易

二三子偃が言是

前言戲之耳

公山弗擾費と

以畔く召子往と

欲と子路説び不

曰く之と未已

何なんぞそ必かならずららむむ公こう山さん
氏しふふ之これ之ゆゑ

夫我それわれを刀口者よりのあへ豈
徒やうかつくへ哉やう如我
をめい用りる者のあへ有あるべ
吾其東周それわれとうしゅうをやん為うす

詩
詩
四

公山弗擾（やうさんふじやう）とらふ者へ季氏（きし）が宰（さい）として陽虎（やうこ）と（あ）合（あ）せて
 季桓子（きかんし）を執（と）へ己（おのれ）が領分（りやうぶん）の費（ひ）の人数（じんず）を催（もよほ）して畔逆（はんぎやく）
 となりしを（を）もく聖人の御知（ごち）をちのちとちんと召待（めいまち）を糸（いと）が
 ひきまき（を）ば聖人も往（ゆ）と欲（ほつ）しめしき（を）御門人（ごもんじん）子路（しりう）之と
 聞（き）て悦（よろこ）び（も）して曰（いは）く之事（のじ）未（ま）ず（も）さかち（を）已（や）む此件（このけん）へ
 より（も）く（に）不義（ふぎ）のま（を）く（に）何（なん）し（も）必（かならず）ぎ（も）ハ公山氏（こうさんし）へ之（の）事（こと）
 之（の）や（ん）也（や）
 子曰（いは）夫召我者（そめがきこ）而豈徒哉（なんぢたか）如有

用我者吾其爲東周乎ナ

聖王人御登るに
ふで公山を乗る

及^あび^ひふ^ふ今^{いま}我^{われ}を召^よと豈^{いかで}徒^たつ^とじ^じと^と人^{ひと}や
 り^り我^{われ}示^しと^とを^を用^{もち}う^うな^なう^うが^が吾^{われ}の^の周^{しゅう}の^の德^{とく}の^のさ^さう^うん
 な^なう^う—[—]如^{ごと}く^く德^{とく}を^を東^{とう}方^{ほう}う^うむ^むめ^めん^んと^とな^なう^うと^とな^なう^うと^とな^なう^う
 聖^{せい}人^{にん}の^の心^{こころ}ハ^ハ國^{こく}の^のと^とき^き民^{たみ}の^のく^くし^しと^と憂^{うれ}ふ^ふ且^{かつ}と^と
 い^いる^るう^うの^の中^{なかつ}ふ^ふ道^{みち}の^の行^なは^はる^る時^{とき}節^{せつ}あ^ある^るの^のう^うて^て又^{また}
 過^かも^もう^うを^を改^{あら}め^めぬ^ぬ人^{ひと}も^もう^うな^なる^るの^のゆ^ゆゑ^ゑと^と仰^{おほ}せ^せう^う—[—]な^なう^う
 先^{さき}づ^づて^て南^{なん}子^しに^にま^まと^と今^{いま}や^やと^と公^{こう}山^{さん}氏^しへ^へ之^{これ}と^とう^うめ^める^る
 聖^{せい}人^{にん}仁^{にん}心^{しん}の^のあ^ある^るの^のゆ^ゆゑ^ゑと^と別^{べつ}の^の義^ぎな^なう^うの^の事^{こと}ハ^ハ東^{とう}涯^げ

○子張問仁於孔子。孔子曰：「能行五者。」

於天下爲仁矣。請問之曰。恭寬信敏惠。

恭則不侮寬則得衆信則人任焉敏則

有功惠則足以使人

御あゝ五者の

子張仁と孔子
は回孔子曰まぐ
能五の者と天下
を行かうを仁と
為請之と回曰ま
ぐ恭寛信敏
惠恭なるを則
ち侮む不寛
なれば則ち衆
を得信なれば
人任む敏なれ
ば則ち功有惠
なれば則ち以て
人を使ふ足

子張を天下の人へ施し、物とせしむる仁とせしむる
 恭しく言語振舞みせしむる万事、就て敬すひと
 用ゆる人侮らるる一ツは心せしむる何れをもさし
 たる事、うをを寛らうとせしむるのどくなく、衆人の
 歸うを得らるる三ツは違ひなく、信を守らるる
 事を任する四ツは怠らざりて早速にのを仕
 くる人をバ敏とらるる極てその功あり五ツは愛し、患

佛肸召子往欲
諸夫子小聞
曰之親其
身為不善
為者君子入
不佛肸中牟
以時子之往
之如何

然是言有堅
曰不乎磨
不白曰不乎
涅

吾豈匏瓜也哉
焉能繫
食不

由女六言の六蔽
を聞乎對曰
未居吾女
語人

手足の如く

佛肸召子欲往子路曰昔者由也

聞諸夫子曰親於其身為不善者君子

不入也佛肸以中牟畔子之往也如之

何晋の大夫佛肸已城下中牟の人数徒黨を以て謀畔をたくし聖人を召待し御智を人

強欲のなり時聖人往し許し路ハ義勇の強き人なる故に悦ばしめて曰く昔日夫子の御詞も

吾身と不善場地と一つて惡と親しのむの

道理を子曰然有是言也不曰堅乎磨

而不磷不曰白乎涅而不緇御答然も是言の

吾豈匏瓜也哉焉能繫而不食

吾豈匏瓜の處に繫つて動用うたが如くもや

人のむさく功をなる有べくひもう今日人も

食をとらふ小ハ非ず毎日て求むとなく毎知に

て用ゆとなく世に益えきなるう人の如く

子曰由也女聞六言六蔽矣乎對曰

未也居吾語女由也女六言の言に六の蔽ありとくを聞

不口やとりり子路未うけらびとしる聖人

のひてまづ席に坐さば一吾語をと聞まば

仁と好で学と好
 其六ヶ条
 左の如く
 好學其蔽也蕩好信不好學其蔽也賊
 好直不好學其蔽也絞好勇不好學其
 蔽也亂好剛不好學其蔽也狂

○子曰小子何莫學夫詩
 聖人あり何ゆへ夫詩を學ぶか、ハヤと仰せり
 小子ハ御門人のこと詩經の徳左の如く

詩以て興可以
 觀可以以君
 事之遠之
 君多識鳥
 獸艸木之名
 子伯魚謂て
 曰まはく女周南
 召南を為し
 乎人にして周南
 召南を為し
 正しく面牆
 て立猶と與

詩可以興可以觀可以羣可以怨
 事父遠之事君多識於鳥獸艸木之名
 子謂伯魚曰女爲周南召南矣乎人
 而不爲周南召南其猶正牆面而立也
 與

禮云禮云玉帛云乎哉樂云樂云云樂云鍾鼓云云人哉

色厲而內荏諸小人其猶穿窬之盜也與

鄉原德之賊

道小聽而塗說德之棄也

鄙夫與君事可與哉其未之得未之

如... 仰せらる

子曰禮云禮云玉帛云乎哉樂云樂云

云鍾鼓云乎哉

鐘鼓玉帛の音楽耳をよりて其心を以て礼と云んや

子曰色厲而内荏諸小人其猶穿

窬之盜也與

色厲而内荏顔色厲く容正しく小人其猶穿窬之盜也與

子曰鄉原德之賊

郷原の徳の賊人なりとて徳を害す者なり

子曰道聽而塗說德之棄也

人の病ハ徳をたぐひて其言を徒らに傳へて徳を棄つる也

口耳四寸の学もいなり只今耳に傳へて口を以て四寸を以て

子曰鄙夫可與事君也與哉其未得

聖典余而

罪を聖人に得てゐるのあつてや折しも聖人に
奉りてゐると来てゐる聖人にそれを辞退してゐる疾を以
てその命を將ゝその戸口へ出てゐる。悲しいの
うへ時にくとあつてゐる聖人に心を取つて歌う。誠の

宰我問三年之喪期已久矣

疾してはなれを示し一聞しめく其逢ざる所以をゆへり

○宰我問三年之喪期已久矣

宰我曰三年之喪期已久矣思之思之聖人何事乎親の忌服

君予三年不為禮禮必壞三年不為樂

樂必崩舊穀既沒新穀既升鑽燧改

火期可已矣然則三年之喪期已久矣

三年と禮樂をやめし時ハ法壞てその序崩るべし

期年とハ天地の間万物改まり易らるる

五穀ハ新穀となり燧も亦つとる燧ハ火をともす

おなり四季火をたぐの木四品ありめくの如く一年に

てまて新し物にうつりたる然ハ喪のころ然べし

子曰食夫稻衣夫錦於女安乎曰安

聖人聞めしこと同くハ汝今と一月の短きと好む

錦を衣稻を食するに忍びざるの心あるべし然と

仰せらるる宰我はとて女安則爲之夫君子之

居喪食旨不甘聞樂不樂居處不安故

不爲也今女安則爲之

女安ハその如く爲べし君子をまつとしるハ他の義に

あつて口を味ひを甘ざり取し聞しハ樂とせん日を

あつてのうちに居處をさる常の業も女にあらぬ

これを爲すなと安心しと宰我出子曰予之

夫稻を食し夫錦を衣女は於

女安ハ則ち之

を爲夫君子之

喪居日さを

食して甘る不

樂を聞て樂ま

不居處安あり不

故ゆへは爲不令

女安ハ則ちハ

之を爲よ

宰我出二曰まハ

子生きて三年
然して後父母
之懷を免
る夫三年之喪
天下之通喪也
予三年之愛其
父母有入乎

飽きて食する
と終日心を用
所難哉博
之者有不平
之を為ハ猶已
賢

子路曰君子ハ
勇を尚ふ乎
子曰ハく君子

經典餘師

不仁也子生三年然後免於父母之懷
夫三年之喪天下之通喪也予也有三
年之愛於其父母乎

聖人
子之悲
代の聖王
戚に身を傷め
用とた
の恩愛父母
の御に
喪服の事ハ
元

○子曰飽食終日無所用心難矣哉不
有博弈者乎為之猶賢乎已

聖人仰セホロハ食事ハ飽シテ終日
之を為ハ猶何モ已メ居ルハ賢ベ
宜
仰
懶惰ハ空ク日月を懶惰
博ハ局戲ハ亦ハ其を圍

○子路曰君子尚勇乎子曰君子義以

論語

二十

王集集

義以て上と為
君子勇有て義
無き乱を為小
人勇有て義無
盗を為

子貢曰く君子も
亦惡と有乎子
曰まはく惡むと
有人之惡と稱
下流は居て而
て上を誅る者
を惡む勇有て
而て禮無者
を惡む果敢小
人而て室
者を惡む

曰まはく賜も亦
惡と有乎微て
以て知と為者
惡む不孫に
以て勇と為者
惡む計いて以て
直と為者と惡む

唯女子と小人與
養之難と
為之近と

為上君子有勇而無義為亂。小人有
勇而無義為盜。子路始て御人となつて
同奉まつるや、君子も勇

義を尚ふて宜まやと聖人御答ふ人ハ貴賤となく
義理をありとせんを、君子勇のをも好て義を輕
しむる時ハ爭ひ戰ふとて、盜竊の心を起さずとて
小人勇を好むハ利欲を樂しむるを起さずとて

○子貢曰君子亦有惡乎子曰有惡惡
稱人之惡者惡居下流而誅上者惡勇

而無禮者惡果敢而室者子貢問奉まつる
ハ君子の德ハ

寛仁と御答元より君子も惡とあるより其ふくむべき
ハツ人の身の以上の惡を尊を稱とを好むのありニツ
ハ下流に居るが上を誅するハ勇氣と輕

禮法を輕むるものなり四つハ我ハ簡をよめて
人ハ相謀む能く果敢て外ハの異見を室との
ありふるものなり曰賜也亦有惡乎惡微

以為知者惡不孫以為勇者惡計以

為直者微也亦惡とありふるものなり御答の
あり子貢も亦惡とありふるものなり

有る一ハ人のかく事ハ世の中のものなり
とと探しとめこれを知てとて己が知日と
附合ハ人よりて之を逃避するそれを以て己が勇と

なまニツハ人の心よつとかく、或ハちりて向ふと人
とと耻しとありそれをちり言はるハ言はるハ直
ちりとてとて物を包むと存するハ直
つりよる等しとてとむべしと存するハ直

○子曰唯女子與小人為難養也近之

孔子曰三仁有

時ハ國よくとく治るる武王天下の爲に
紂を亡せし伯夷は忠を暴悪たりとせし
孔子曰殷有三仁焉 聖人常に仁をいふ

るに義といふは仁とあつて仁とあつて君臣の大義を重んずる
るに義といふは仁とあつて仁とあつて君臣の大義を重んずる
道異邦比るるを 敬畏まじくしといふ 天職自然の明

柳下惠士師と

○柳下惠爲士師三黜人曰子未可以

去乎曰直道而事人焉往而不三黜狂

道而事人何必去父母之邦 柳下惠ハ古の

賢人なり君に

仕て三黜め黜るは又三黜め出されしなりその

黜るは時あり人のいひるにハ子の賢徳ありるが

外して用らざるを以て國を去るは今日直の道を以て

人ハ道に狂て人

事ハ何ぞ必と

父母之邦を去ん

齊の景公孔子と

待て曰く季氏の

若しハ則ち吾能

不季孟之間を

以て之を待人曰

吾老る用ゆる

能ハ孔子行

○齊景公待孔子曰若季氏則吾不

能以季孟之間待之曰吾老矣不能

用也孔子行

○齊人歸女樂季桓子受之三日不

朝孔子行

聖人魯の司寇とたり相の事とて國政を執りこれよりつて魯國權

楚の狂接輿歌
て而して孔子を
過曰く鳳かれや
鳳たのまや何ぞ
徳之衰るへる往
者ハ諫を可く不
來者ハ猶追可
已ん已ん今之
政に從ふ者ハ
殆

勢をさうし四方恐るなりく齊を沮んと義女の
音樂をさうし賄賂に三家季桓氏之をさう納て
色一溺る君ハ政務一怠り朝廷へ出づるを
三日わう聖人も時の勢をさうし遂に去るを

○楚狂接輿歌而過孔子曰鳳兮鳳兮

何徳之衰往者不可諫來者猶可追已

而已而今之從政者殆而

暗の時ハ賢人より世をさうして隱るるを隠者
といふ接輿ハ楚の國の人として表向ハ狂ハといひて
隠者なり聖人行過り時曰く人の人ハ人間の鳳皇
なりまうさる世の中濁るとハ徳もさうさる已而已而
と知る何ゆへに今まで隱るハざる已や往者一とハ諫
をさうさる來者の一とハ心を追可きとて隱者と

孔子下之與言
人欲趨之
政道にさうする從ひのハ殆といふ孔子下欲與之言

趨而辟之不得與之言
聖人辟めりて賢者
惜るをさうして興より下よりさうさるものんや
足趨よりさう辟て遠よりさうさるを得るをさう

長沮桀溺耦而耕孔子過之使子路問

津焉
耦ハ耕ハて居るをさうさる聖人川の津をさうさる

長沮曰夫執輿者為誰子路曰

為孔丘曰是魯孔丘與曰是也曰是知

津矣
長沮子路にたづぬるやハ跡ハ輿をさうさるを

長沮又曰くこれハ魯の孔丘なり長沮の曰く是聖人なりとや
て曰く是孔丘なり長沮の曰く是聖人なりとや

自然^{じぜん}の津^つを知^しづと^しつ^つ此^こ心^{しん}ハ聖^{せい}人^{にん}隱^{いん}者^{しや}と^とな^なる^る虎^こと^とな^なる^る道^{どう}理^りと^とな^なる^る妄^{もう}に^に天^{てん}下^がを^を遊^{あそ}ぶ^ぶま^まや^や然^{まづ}バ土^ち地^ちに^に生^まる^る

好む心ちうきとに聖人ハ我身人を潔きとて

好むより天下の道を憂ふ

問人徒弱ヲ徒弱ヲ曰ク子ハ爲ス隼ト爲ス隼ト爲ス中ト爲ス中ト

周方多溪文漢巨一爲言巨爲一可巨

是魯孔丘之走也。然自作者不

二 聖公^ナ 萬^{ナリ} 佳^ナ 名^カ 之^ニ 上^ラ 四^シ 其^ナ 至^シ 辛^カ

下皆是也而諱以易之且而臨其後君

人之上也。豈若從辛甚之上哉。息而不

方之也豈非居世之吉表也

又樂廟（たけのみや）の曰く子ハ誰人（たれひと）とてこゝろ冬

車で、何由か、築渾の曰く是、子土の、

て道の行ふべきもの時あり誰う以て風俗をさる易

えんや聖人^の救^{すく}ふの思^{おも}ひの^もて却^{かへ}て志^しの^の不^ふ美^み我^{われ}

かろ人とて嫌きら碎くだりきりばや而そもそのまゝに金かねを辟ひら

[illegible]

二客方及三無志曰粟大

子路行以告夫子慨然曰鳥獸不可

司ス臺ロヲ号シ卡ス方人之走與而佳與天下

同者吾非其人之徒與而言與

有^レ道^ノ位^ニ不^レ與^ス易^シ也^ヲ

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

天下の道ありて何れに教を施し易しと云ふ

子各正而後興仁以士有示

子路從而後遇丈人以老杖

問曰子見夫子乎夫人曰禮不勸五

[illegible]

穀不分。孰爲太子。植其材而芸後之人乃乳

折しも丈人の篠器を荷もてに遇々とハられ一同女子

や夫子のどやうと見えやと丈人そとて曰やう人として

三十五
王彙集館藏

體勤不五穀令不
孰也夫子為其
杖植芸焉

子路拱而立

子路止而病

殺雞為黍而食之見其二子焉

食也其其二子

見之

明日子路行以

告子曰曰

者也

之見也則

行

子路曰

義無長幼之節

廢可

之義之如何其

之廢也

之潔也

欲之大倫也

君子之仕其義

之行也

之已也

逸民伯夷叔齊

虞仲夷逸朱張

柳下惠少連

其志

不其身

伯夷叔齊

四休五穀世

勤也耕

植也

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

子路拱而立

與柳下惠少連

謂之志也
身之辱也
中倫中
行中慮
其斯已

虞仲夷逸

中廢權中
身清中
中廢權中

我則異於是

不可無

謂柳下惠少連降志辱身矣言中倫行

中慮其斯而已矣

謂虞仲夷逸隱居放言身中清廢中權

我則異於是

無可無不可

○大師摯適齊亞飯干適楚三飯繚

適蔡四飯缺適秦鼓方叔入于河播鼗

武入于漢少師陽擊磬襄入于海

○周公謂魯公曰君子不施其親不使

大臣怨乎不以故舊無大故則不棄也

無求備於一人

○論語四

無

周有八士有伯達
伯适仲突仲忽
叔夜叔夏季隨
季駟

子張第十九

子張曰士有危
致得命
義と思ひ奈
小敬と思ひ
哀と思其可
已

子張曰徳と執
弘と不道と
信と不篤と
不焉と能
と為焉と能
と為

經典餘師

任へる器量なきを元より早く宮に置けり
民不仁なるべし若以てその位を置けり
任まざるを元より早く怨を起さるるを
とれは棄てざるべし人となつて一人
御門弟へ御のかりあり

周有八士伯達伯适仲突仲忽叔夜

叔夏季隨季駟
周の弟三成王の御宇二人の
兄を伯仲叔季ハ天朝の太師太保
兄を伯仲叔季ハ天朝の太師太保

子張第十九

子張曰士見危致命見得思義我思敬

密思哀其可已矣
の如く致べしと官祿より以下小事
も得しつとてこれハ義ヲ不義カ
鬼神の祭るに礼と敬とを以て
とハ悲しみの情を尽くさるる可
とハ悲しみの情を尽くさるる可

子張曰執徳不弘信道不篤焉能
為有焉能為亡
心は執りしと不弘時徳は
為有為無の如くして焉能徳と
○子夏之門人問交於子張子張曰子

夏云何對曰子夏曰可者與之其不可
○子夏之門人問交於子張子張曰子

論語四

三十八 王集集解

者拒之。子張曰：異乎！吾所聞，君子尊賢而容衆，嘉善而矜不能。我之大賢與，而於人何所不容？我之不賢，與人將拒我，如之何其拒人也？

 聖人崩トウいて、子夏の
 門人、子張ヘ
 同ク子張の曰ク子夏ハ何云ク、
 師のいふやとあうく付合りのハ可者とあうく與るべし
 不可人ハ心うく拒むべし
 子張ハ其をうく拒む
 吾聖人ト聞くとハ異なりと云ふ
 君子ハ賢徳
 をたふし心勝く衆の人を容れ
 矜むゆいんと云ふ
 我身も大徳の賢者
 固より人を不容の理あり
 我身を不賢
 時りや人より我を拒む
 何之如人
 拒の理あり

切き同と近ちか思おも

恐泥是以君子不爲也

 子夏の曰くかの西
 者山臥巫祝の小道

して、この事に就て観可とも有て捨べしん然
 るに泥とりの癖ありて必ず道をどう違へゆへ
 爲さうたといふに占にふへしとのりハ易し通
 へしといふて聖人の道を知とりひき音韻を學て

いふれども古書文章に通じ
いふれども人のあはれとて

○子夏曰日^ク知^リ其^ソ所^ヲ亡^キ月無忘其^ル所^ヲ能^ル

可謂好學也已矣
キコフクハクニイハレタリ
此の言はるるは、孔子の言に依りて、好學の意は、自ら學ぶを好むをいふ。可謂の意は、可なりと云ふ。好學の意は、自ら學ぶを好むをいふ。已の意は、止むをいふ。矣の意は、終りの意をいふ。

忘るべし。眞の學問を好むと云ふのは、鍛錬を云ふて、

○子夏曰博學而篤志切問而近思仁

仁其中小在

子夏曰百工肆

事以成君子學
致也

子夏曰小人之
過必文

子夏曰君子
之望也儼然

子夏曰君子
信而後後
未信則已

經典餘師

在其中矣

行なふこと、忠孝慈愛の理を、古人の意を、わきまめ、我身に
近く、引、あて、忠孝慈愛の理を、わきまめ、我身に

子夏曰百工肆以成其事君子學

以致其道

場、居、し、ち、あ、り、外、へ、心、を、つ、く、事、を、お、く、か、う、
ま、く、君、子、に、ま、る、者、ハ、學、問、に、よ、り、て、外、の、欲、利、に、誘、は、れ、
其、道、を、致、す、と

子夏曰小人之過也必文

子夏曰君子有三變望之儼然即之

也溫聽其言也厲

然、も、即、ち、温、か、り、温、か、り、温、か、り、温、か、り、温、か、り、
明、に、確、て、厲、く、覺、ゆ、め、ゆ、め、ゆ、め、ゆ、め、ゆ、め、
心、を、つ、く、心、を、つ、く、心、を、つ、く、心、を、つ、く、心、を、つ、く、
か、う、て、ハ、心、安、堵、な、る、ち、ひ、う、さ、な、る、

子夏曰君子信而後勞其民未信則

以為厲已也信而後諫未信則以為謗

已也

諫、も、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、
謗、も、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、
謗、も、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、未、だ、信、ぜ、れ、

論語四

四

王象集官載

子夏曰仕而優則學學而優則仕

子游曰喪致乎哀而止

子游曰吾友張

能難為然未

曾子曰曰吾

堂乎張與

立人仁為

難

曾子曰曰吾

諸夫子小

人未自致

親者有未

親之喪乎

曾子曰曰吾

子夏曰仕而優則學學而優則仕

凡士の世に出てつづつゝハその志を行

子游曰喪致乎哀而止

子游曰吾友張也為難能也然而未

仁評曰曰吾友子張ハ才氣高く行ハ

曾子曰堂堂乎張也難與並為仁矣

也必也親喪乎

曾子曰吾聞諸夫子孟子曰子之孝也

其他可能也其不改父之臣與父之政

是難能也

上其道を失ふ
て民散久矣
如其情得
則ち哀矜
喜ふ勿

子貢曰く紂之不
善なる是の如く
甚くして君子ハ
是を以て君子ハ
下流は居るを惡む
天下之惡皆焉に
歸る

子貢曰く君子之
過まら日月之食
の如く過まら人
皆之を見更と
も人皆之と仰ぐ

衛の公孫朝子貢
に問て曰く仲尼
焉を學

子貢曰く文武之
道未だ地に墜
人賢者ハ其
大なる者と識
不賢者ハ其小

子曰上失其道民散久矣如得其情則

哀矜而勿喜孟子ハ魯の大夫なり曾子の御
子陽膚を士師の官にめり

士師ハ詩言決斷を司るなり
士師の官を道と問奉る曾子の御答當時上

者道とて不仁不義を政道とて行ひ
あゆめ民塗炭をくみり寛仁を用心を恕

治めよ民若くを治めよとて人情を
得べしと哀矜て吾才能と喜ぶとる

○子貢曰紂之不善不如是之甚也是

以君子惡居下流天下之惡皆歸焉

子貢批判し紂の紂王を見大惡に勿論
あつても是れ來如是は甚くして惡心

惡逆長を來るものなり好まざる心は流るなり

以て君子の人ハ上下の流におつる場ハ居るを惡む

○子貢曰君子之過也如日月之食焉

過也人皆見之更也人皆仰之

又曰く君子ハ過をあるも小人ハ之を耻と爲
て改むるなり暗きにありむる君子ハ之を食

の如く君子ハ過をあるも小人ハ之を耻と爲

○衛公孫朝問於子貢曰仲尼焉學

衛の大夫孫朝の曰く聖人焉のたれと學でか子貢

曰文武之道未墜於地在人賢者識其

大者不賢者識其小者莫不有文武之

者之識と武武之道有不と莫らん夫子焉くなく學び不ん而して亦何の常の師の之有ん

道焉夫子焉不學而亦何常師之有

子貢の答王武王仁義の道今の世に地にありき墜るる賢者とよばる人ハその徳の大なる者と識たう不賢者の人ハ徳の小者なるの識たう大小に文武の道なるをハかり夫子大小にそれ就る馬を學びハるゝとめつたり就て學ぶの処ハ師なりと定めて常の師とせむ義ハ有

叔孫武叔大夫朝語て曰く子貢仲尼は賢

○叔孫武叔語大夫於朝曰子貢賢於

子服景伯以子貢告子貢曰

仲尼魯の大夫叔孫武叔の序子貢の徳を稱て子服景伯以告子貢子貢曰譬之

之と宮牆の壁と

宮牆賜之牆也及肩窺見室家之好夫

室家之好を窺見夫子之牆ハ數仞

子之牆數仞不得其門而入不見宗廟

何なり其門を得て入不バ宗廟之美百官之富

之美百官之富景伯の答子貢に告るに子貢の答ありけるハ至極

見不其門を得者或ハ寡なり夫子之云亦宜か

得其門者或寡矣

乎

夫子之云不亦宜乎又聖人の牆壁ハ數十仞ありて其門より入て

叔孫武叔仲尼を毀る子貢曰

○叔孫武叔毀仲尼子貢曰無以為也

仲尼ハ毀る可く不他人之賢者ハ

仲尼不可毀也他人之賢者丘陵也猶

聖也余市

仲尼不可毀也他人之賢者丘陵也猶

聖也余市

仲尼不可毀也他人之賢者丘陵也猶

聖也余市

仲尼不可毀也他人之賢者丘陵也猶

聖也余市

仲尼不可毀也他人之賢者丘陵也猶

聖也余市

仲尼不可毀也他人之賢者丘陵也猶

五陵之猶踰可仲兄
八日月也得て踰
無人自^{みづか}く絶^く
んと欲^{ほつ}こと雖^{いふ}ども
其何ぞ日月を
傷^やむん乎多^{おほ}く其
量を^{りき}を^{しやう}知^し不^くと見^み

陳子禽子貢
謂て曰く子恭
為仲尼豈子
又賢る乎

子貢曰く君子ハ
一言以て知と為一

言こと以もつて不ぜ知ちと爲なす
言こと慎しんま不ぜバあらる
可べく不ぜ夫子ふし之の
言ことを

及可いく不天之
階きて升可のちく
不さ猶と一

夫子^{こうし}之^の邦^{のくに}家^をを
得^うる^え者^{もの}所^{ところ}謂^{いは}之^を
を立^たば斯^す立^ち之^を
を道^{みち}びけバ斯^す
行^ゆ之^を綏^{やす}むれば
斯^す来^き之^をを
動^うせバ斯^す和^{くわ}
其^{その}生^{せい}る栄^{さう}へ其^{その}
死^しる哀^{うゐ}之^を

如何也其及可
けん

堯曰第二十二

堯の曰く咨再
舜天之曆數再
其躬一在允
其中を執四海
困窮也天祿
永く終え

邦くといふ家くといひ人く皆めんと得て仁と
とたとへばその妙なること育ちのふへ忽ち斯く生
道引るべし斯く行きて終るべし来て歸る
をたう動るべし和さるることを誠く聖人のたう
栄のやと死ゆるべし天地父母の如く世に生るべし其徳も
と自餘の人如く何も
あつてと理たう

堯曰第二十二

堯曰咨爾舜天之曆數在爾躬允執其
中四海困窮天祿永終

帝御位を禪
位を曆てゆづる万歳の吉言を再方の躬一人小
在なる四海万民困窮する時天下を保君するの祿も

舜も亦以て禹
命ぞ

舜亦以命禹
舜帝より禹王へ禪

曰く予小子履
敢て玄牡を用て

告予小子履敢用玄牡敢昭告于

敢て昭らるる皇
皇皇后帝

皇皇后帝有罪不敢赦帝臣不蔽簡

告人罪有ハ敢て
赦さ帝臣蔽ハ

在帝心朕躬有罪無以萬方萬方有罪

不簡て帝の心
一在朕が躬罪有

罪在朕躬

一在朕が躬罪有
ハ萬方を以てま

昭る小皇皇なる后帝に告奉りて曰く天に逆て

罪無けハ萬方罪
有ハ罪朕が躬一

罪ある者ハ予これを赦さん天に順て民を治るの賢人ハ

有ハ罪朕が躬一
在

帝の御心なり朕身に罪ありばあれ万方の人の罪あるは

周大賚有善人是富

乃方の中罪を犯りて此の罪の朕躬より生じたりと人を責むるに己を責むるに厚く仁の至りたる乃方と何ぞと周有大賚善人は富是

周親有と雖も仁人不如百姓過有は予一人に在

以下武王の事なり周の武王天下の主たりて四海の民へ廣大なる賚をさすに賢者善人を擧りて國を治め雖有周親不如仁人百姓有過在予一人

權量を謹し法度を審むに廢官と修め四方之政を行さる

武王の御意あり一人に在る謹權量審法度修廢官四方之政行焉

滅國を興絶世繼逸民を擧天下之民心を歸せ

四方の國々端々迄興滅國繼絶世舉逸民天下之民歸心焉

重んずる所民食喪祭

所重民食喪祭

寬く得信るれば則ち衆

信則民任焉敏則有功公則說

則ち説ふ

子張孔子に問て曰何如斯可以從政

子張孔子に問て曰何如斯可以從政

子張問於孔子曰何如斯可以從政

悪を屏ぎ、斯く
 以て政を以て従ふ可
 子張曰く何ぞ五美
 謂子曰まづ君子
 の恵して費やさず不
 勞して怨む不欲して
 貪む不泰にして驕
 らず不威にして猛
 不子張曰く何ぞ惠
 して費やさず不謂子
 曰まづ民之利を
 所因て之を利す
 斯亦恵して費やさ
 不ふめ不乎勞も
 可と擇んで之を勞む

矣。子曰：尊五美，屏四惡，斯可以從政矣。子張曰：何謂五美？子曰：君子惠而不費，勞而不怨，欲而不貪，泰而不驕，威而不猛。子張曰：何謂惠而不費？子曰：因民之所利而利之，斯亦惠而不費乎？擇可勞而勞之，又誰怨？欲仁而得仁，又焉貪？君子無衆寡，無小大，無敢慢，斯亦泰而不驕乎？君子正其衣冠，尊其瞻視，儼然人望而畏之，斯亦威而不猛乎？子張曰：何謂四惡？子曰：不教而殺謂之虐，不戒視成謂之暴，慢令致期謂之賊，猶之與人也，出納之吝謂之有司。

又誰ぞを怨む仁
欲して仁を得る
又焉えを貪らん
君子は衆寡と無
小大と無敢て慢
と無斯亦泰然に
して驕らふあ
不乎君子其衣冠
と正す其瞻視
と尊く儼然と
して人望んで而
て之を畏る斯亦
威して猛る不
ふあ不乎子張
曰く何ぞ四惡と

子張の問をうけて、
 事を行なひて政道に用ひ
 事とやとなつて御答へ五つの美とを尊と四つの惡を屏く
 べしと云ふこと、
 可奉するその五美四惡とやハ何なることと
 云はんやと則ち下の數條をのべりあるに子張の
 委細を御問ひけるに、
 聖人そのくちをのべり、
 御答へハ民の利なること、
 因て之を許
 せバ別々費をなすべし、
 惠かるべし、
 厚税重賦と
 如くも苦勞多きこと、
 當ハ擇で之に勞
 べし、
 誰を怨むとや、
 理りや、
 又人よとの
 欲と云ふべし、
 仁の道とを糾ぐるべし、
 貪るもの
 又君子とる者ハ、
 勢の衆大なるも、
 小寡も慢
 誠に泰然として、
 驕るべし、
 君子ハ衣服

謂子曰まはく教へ
不^レて殺^ス之^ヲを
虐^ク謂^フ戒^メ不^レ
て成^ルを視^ス之^ヲ暴^ス
と謂^フ今^ニと慢^ニ期^ス
致^ス之^ヲを賊^ト謂^フ
猶^モ之^ヲ人^ノ與^ニ出^ス
納^ス之^ヲ之^ヲ吝^ニ之^ヲ
有^リ司^ノと謂^フ

命^ヲを知^ラ不^レ以^テ
君^ヲ子^ヲ為^スと無^レ礼^ト
知^ラ不^レ以^テ立^ツと無^レ
言^ヲと知^ラ不^レ以^テ
人^ヲと知^ラと無^レ

論語卷之四終

冠^ニ冕^ヲを正^シ瞻^ミ視^ス尊^ク威^儀を儼^然人^ノを
畏^ルつゝ威^儀あ^リと猛^ニと^ス又^モ四^ノ惡^ヲを説^ク
の國^ヲを治^ムるの^ノ人^ノ下^ノの民^ノも義^理を^モた^スるの^ノ罪^ヲと
小^ノ政^道を^モ示^スる^ノや^ハゆ^ニて^ハ法^度あ^リと^スる^ノめ^ノより^ノ罪^ヲと
犯^スる^ノあ^リと^スる^ノ殺^スる^ノを^モ虐^クと^スる^ノ又^モ教^戒と^スる^ノ手^ノ前^ノに^モ
む^ニて^ハい^ハふ^ノの^ノち^ノく^ノ邪^惡を^モ成^スる^ノを^モ暴^スる^ノ又^モ
上^ノの^ノ嚴^命を^モ慢^ニと^スる^ノ遂^ニに^ハ其^ノ咎^ヲの^ノ期^ヲと^スる^ノを^モ賊^トと^スる^ノ
猶^モ之^ヲ人^ノに^モ物^ヲを^モ納^スる^ノ中^ノに^モ出^ス納^スの^ノ吝^ニと^スる^ノ
風^ヲと^スる^ノ有^リ司^ノ

○子曰不知命無以為君子也不知禮
無以立也不知言無以知人也

身^ノの^ノ吉^利と^スる^ノ言^ヲと^スる^ノ自^然の^ノ命^ヲ分^クと^スる^ノ定^メと^スる^ノ愉^快快^悔を^モ
い^ハふ^ノの^ノ理^ヲと^スる^ノ命^ヲと^スる^ノ知^ラ不^レ以^テ人^ノと^スる^ノ知^ラと^スる^ノ理^ヲと^スる^ノ
知^ラ不^レ以^テ人^ノの^ノ邪^惡と^スる^ノ知^ラと^スる^ノ理^ヲと^スる^ノ



